



2022年11月29日

各 位

会社名 東 海 運 株 式 会 社
代表者名 代表取締役社長 松井伸介
(コード番号：9380 東証スタンダード市場)
問合せ先 執行役員 永山賢一
企画管理部長
(TEL. 03-6221-2201)

サステナビリティ基本方針の策定およびマテリアリティの特定に関するお知らせ

当社は、2022年11月29日開催の取締役会において、サステナビリティ基本方針の策定とマテリアリティの特定に関して、下記のとおり決議いたしましたのでお知らせいたします。

記

当社グループは、「市場と顧客に選ばれる企業」を将来のありたい姿として掲げ、その実現に向けた第2ステップである現中期経営計画「ステップアップ AZUMA2023」において、「ESG 経営から SDGs 達成に貢献する」ことを基本戦略として取り組んでおります。

今般、当社グループの経営理念である「お客様に最適な物流サービスを提供する総合物流企業を目指し、社会に貢献するとともに企業価値を高める。」ことの実現と、当社グループの企業価値創造に向けたサステナビリティ経営体制の確立を目的として、サステナビリティ基本方針を策定することといたしました。

(別添資料をご参照ください)

また、当社グループは当方針を策定するとともに、マテリアリティ(①人的資本経営×DX、②脱炭素社会の実現に貢献する、③サーキュラーエコノミーの実現に貢献する、④海をきれいにする、⑤地域社会の発展に貢献する)を特定いたしました。当社グループは、事業活動においてこれらのマテリアリティに取り組んでいくことにより、持続可能な社会の実現に貢献するとともに、企業価値を高めてまいります。

以 上

サステナビリティ基本方針

私たち東海運グループは、人々の豊かな生活と社会インフラの構築を支える総合物流企業として、安心・安全・健康を尊重し、人や地球社会にやさしいロジスティクスを実現します。

さらに、「運ぶ力」「繋ぐ力」「貫く力」と常に新しいことに挑戦し続ける「挑む力」によって、未来へ続く社会の発展に貢献してまいります。

当社グループは、以下5つのマテリアリティに事業活動を通じて取り組んでまいります。

1. 人的資本経営 × DX
2. 脱炭素社会の実現に貢献する
3. サーキュラーエコノミーの実現に貢献する
4. 海をきれいにする
5. 地域社会の発展に貢献する

経営理念

「お客様に最適な物流サービスを提供する総合物流企業
を目指し、社会に貢献すると共に企業価値を高める」

人々の豊かな生活と社会インフラの構築を支える

人や地球社会にやさしいロジスティクス

脱炭素社会の
実現に
貢献する



サーキュラー
エコノミーの
実現に貢献する



海をきれいにする



地域社会の発展に
貢献する



人的資本経営 × DX



東海運グループ 5つのマテリアリティ

「運ぶ力」 「繋ぐ力」 「貫く力」 + 「挑む力」

マテリアリティ	優先する取組み	関連するSDGs
<p>1. 人的資本経営 × DX</p>	<p>①「安心・安全・健康」 ②風通しの良い職場・組織活性化 ③ダイバーシティ&インクルージョンの推進 ④人事制度の充実 ⑤DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進・活用</p>	
<p>2. 脱炭素社会の実現に貢献する</p>	<p>①GHG排出量の削減(再生可能エネルギー使用を含む) ②環境配慮型設備・機器への投資(導入・更新を含む) ③フェリーを活用したモーダルシフトの推進 ④パートナー企業との共創、活動支援</p>	
<p>3. サーキュラーエコノミーの実現に貢献する</p>	<p>①静脈物流サービスを発展・強化する ②既存事業の枠にとられない事業領域の拡大(事業開発)</p>	
<p>4. 海をきれいにする</p>	<p>①グリーン経営認証の遵守(海運事業) ②バラスト水排出に対する環境保全対応 ③船舶運航における安心・安全の向上</p>	
<p>5. 地域社会の発展に貢献する</p>	<p>①各事業拠点地域における社会貢献活動 ②物流インフラとしての被災地支援</p>	

経営課題を社会課題ごとに分類し、当社における重要度とステークホルダーへの影響度の観点から重要課題の分析・抽出を行った。

Step 1

課題把握と分類

1-1 ステップアップAZUMA 2023、各部方針実施計画を読み込み、SDGsを始めとする社会における課題のトレンド等を広く把握・整理し、ESG課題に分類。

ビジネスにおける重要度とステークホルダーへの影響度を分析しマッピング*を行う。

*アクション、アウトカム、事業へのインパクト、社会課題へのインパクトを検討。

Step 2

ヒヤリングと課題抽出
(可視化・優先順位付け)

2-1 社会課題と親和性の高いSDGsを基に、各部署へヒヤリングを行い、現在、事業を通じて解決している社会課題と、今後事業を通じて解決していきたい社会課題を整理。

2-2 当社の事業理念、経営理念を踏まえて上記の整理を参考にしつつ、将来果たすべき役割を考慮した上で、当社が特に重要と捉え、解決に向け優先的に取り組む社会課題をの分析を行った。

Step 3

課題の整理

3-1 専門家による役員向け研修、社員参加型ワークショップ、全社員向け「SDGsに関するアンケート」を実施。そこで出た課題や自社に対する期待も、Step2で抽出した社会課題に加える。

3-2 抽出した課題をサステナビリティテーマごとに整理。

Step 4

課題の特定

4-1 整理された課題および当社における位置付けについて外部コンサルタントからのアドバイスを受ける。
4-2 取締役会での審議および決議を経てマテリアリティを特定する。